

2011年度 応用物理学科 学位授与式 主任挨拶

小澤徹

皆様、ご卒業おめでとうございます。応用物理学科を代表してお祝い致します。

皆様は応用物理学科に4年以上在籍していた訳ですが、殆んどの方は、この学科の設立経緯や歴史を知らないでしょうから、私が説明致します。

応用物理学科の前身は、大正12年(1923年)に設立された理工学部中央研究所附属基礎工学実験室です。資金の関係で中央研究所本体は無く、基礎工学実験室だけが設立されました。そこに宮部宏先生が着任され、昭和4年(1929年)に小泉四郎先生、昭和21年(1946年)に飯野理一先生が加わりました。その後新制大学発足の計画と共に、先生方は大隈重信侯の夢でもあった物理学科設立を目標としました。しかし、工学系一色の当時の理工学部では理学系学科の設立は困難と云うことで、先ず応用物理学科の設立を目指しました。今から見ると信じられませんが、学内で大反対。昭和24年(1949年)の新制大学発足と共に応用物理学科がスタートしたのは、先生方の必死の努力があったからです。基礎工学実験室はそれと共に理工学研究所となり今に至っています。

その後昭和28年(1953年)に並木美喜雄先生が着任され、翌昭和29年(1954年)には大学院応用物理学専攻が設置されました。昭和36年(1961年)に数学専攻が設置される迄、数学の修士や博士の学位は応用物理学専攻で出していましたが、数学科の人に自慢してはいけません。

昭和33年(1958年)、理工学研究所の所長及び幹事に小泉四郎先生と並木美喜雄先生がそれぞれ選出されました。これを機会に原子核工学科設立を目指しましたが、この計画は結局挫折してしまいました。この運動はその後、物理学科設立へと向かいます。並木先生を中心に学内説得に回りますが、これまた反対の嵐。粘り強い説得の甲斐あって、物理学科が設立されたのは昭和40年(1965年)のことでした。しかし発足年度は学科予算はゼロ。理由は分っているのですが、ここでは言えません。

さて、以上名前の挙がった先生方の名前を冠して、優秀な修士論文を書いた実験系の修士卒業生には宮部賞、理論系の修士卒業生には小泉賞、応用物理学科の最優秀卒業生には飯野賞、物理学科の最優秀卒業生には並木賞を本年度から授与することになりました。スポンサーは早稲田物理会、早稲田応用物理会です。会長、誠にありがとうございます。

この先生方は物理をバックグラウンドにしていた訳でもなく、物理学科、応用物理学科を出た訳でもありません。物理を自ら切り拓き、早稲田に応用物理学科、物理学科を創ったのです。自分の頭で考え、自分の足で立ち、物真似でない独創的な何ものかを産み出す人が、応用物理学科の卒業生から数多く出て来る事を期待して、ご挨拶と替えさせて戴きます。

改めて、卒業おめでとう。